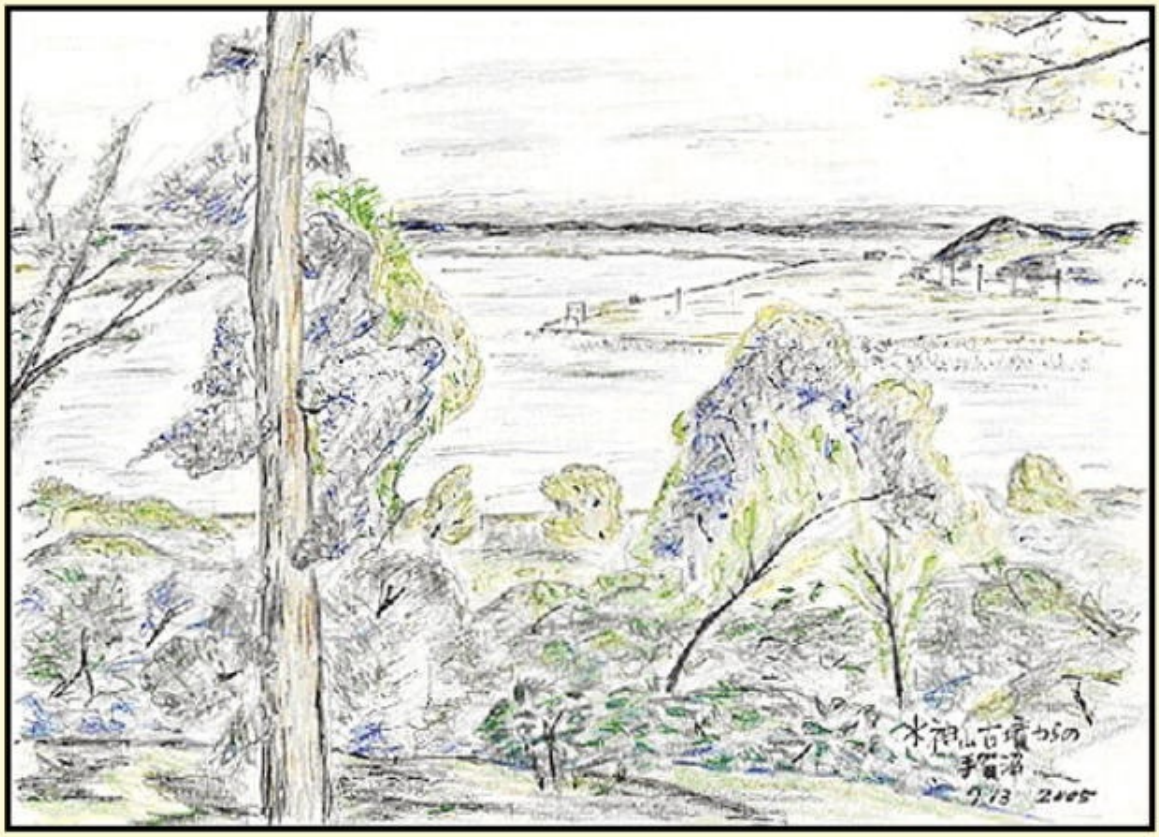
美しい手賀沼と共に生きる

あびこの
歴史景観を探る



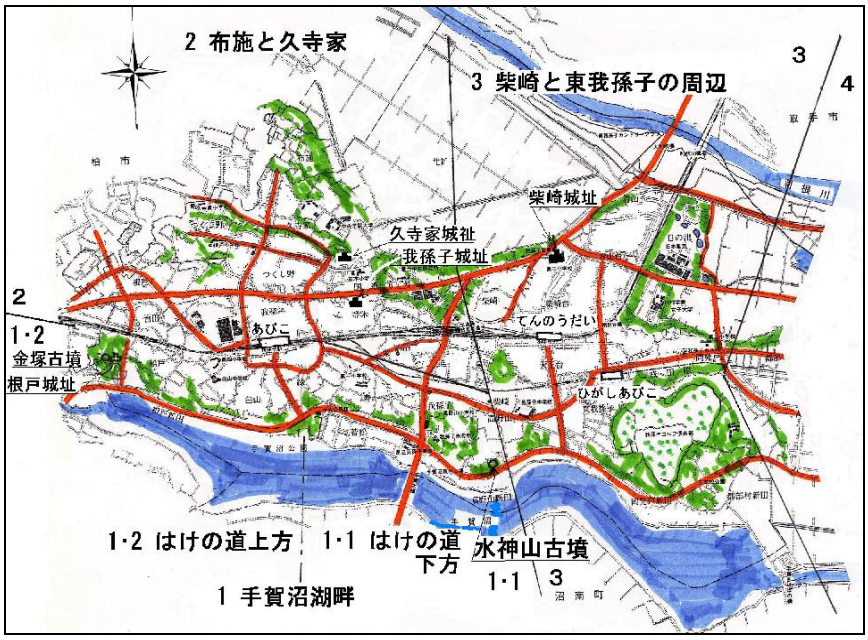
東葛地方最大の水神山古墳から見た手賀沼景観

平成20年　3月

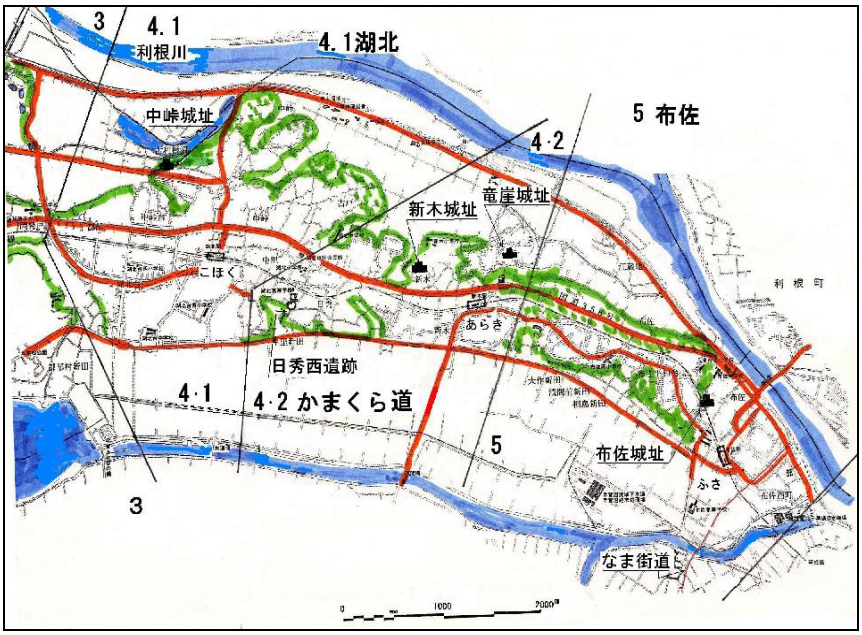
我孫子の景観を育てる会

「あびこの歴史景観を探る」インデックスマップ

我孫子西部



我孫子東部



発刊に寄せて

「我孫子の景観を育てる会」の中に、歴史部会という分科会が発足して六年、その後「歴史景観を探る会」に改称して、今なお活発な活動を続けています。その活動の集大成として、この度「あびこの歴史景観を探る」という冊子を発行いたしました。

これは、会員たちが我孫子の東西南北をくまなく探り、今の景観に歴史という座標軸を当てて、地道に考察してきた貴重な成果です。

古（いにしえ）の、そして近代の我孫子の風景の多くは失われましたが、残った水辺と僅かな斜面林にその面影を追い、文献や史跡によって、各人の心の中に原風景や心象風景を蘇らせてきたのです。

そのことが、母なる手賀沼の、環境と景観の維持向上に聊かでもお役にたてばと願ってきました。

この冊子が、現在（いま）の我孫子の景観案内として、そして歴史への考察の道標（みちしるべ）としてお役にたてば幸いです。

末尾になりましたが、本冊子の発行にあたって、多大なるご協力をいただきました「美しい手賀沼を愛する市民の連合会」に厚くお礼申し上げます。

平成二十年三月

我孫子の景観を育てる会　会長　吉澤淳一

発刊に寄せて

利根川水系沿いには素晴らしい町や村があります。　その中でも美しい手賀沼と共に生きている我孫子は忘れられない町です。

このたび「我孫子の景観を育てる会」の手によって「あびこの歴史景観を探る」という冊子が作られました。

我孫子半島の生い立ちから始まって、手賀沼湖畔のスケッチ、布施、柴崎、東我孫子、布佐と私の知らないところの、いろいろな歴史と沢山の素晴らしい歴史景観を教えてくれました。

流域に暮す人々は、豊かな沼の恵みに感謝すると共に、氾濫、洪水など自然災害への脅威から、さまざまな信仰、習慣、祭り、年中行事を育んできました。　私は水神信仰に関心があります。五穀豊穣を願う「おびしゃ」など様々な事に関心を持っています。

会の皆様の温かな気持ちが伝わってきます。
こんごとも会員の皆様のご活躍を願っております。

平成二十年三月

美しい手賀沼を愛する市民の連合会

会長　田口　迪夫

目次

発刊に寄せて
我孫子の景観を育てる会　会長　吉澤　淳一
美しい手賀沼を愛する市民の連合会　会長　田口　迪夫
序　我孫子半島の生い立ちと手賀沼の歴史景観 …… 1
第一章　手賀沼湖畔 …… 5
案内図（1）はけの道　下方 …… 6
歴史スケッチ　6題 …… 6
案内図（2）はけの道　上方 …… 9
歴史スケッチ　7題 …… 9
第一節　歴史景観 …… 12
第二節　名所解説 …… 13
付図・1 …… 21
第二章　布施・久寺家と我孫子宿 …… 23
案内図 …… 24
景観スケッチ　7題 …… 25
第一節　歴史景観 …… 28
第二節　名所解説 …… 29
付図・2 …… 33
第三章　柴崎と東我孫子の周辺 …… 34
案内図 …… 35
景観スケッチ　14題 …… 36
第一節　歴史景観 …… 40
第二節　名所解説 …… 41
付図・3 …… 45
第四章　歴史を刻んだ湖北と〝かまくら道〟 …… 46
案内図（1）湖北・古利根、（2）中里・古戸 …… 47
景観スケッチ　13題 …… 47
案内図（3）〝かまくら道〟 …… 50
景観スケッチ　10題 …… 50
第一節　歴史景観 …… 53
第二節　名所解説 …… 54
付図・4 …… 63
第五章　元〝川港町〟布佐 …… 65
案内図 …… 66
景観スケッチ　6題 …… 66
第一節　歴史景観 …… 68
第二節　名所解説 …… 69
付図・5 …… 75
あとがき　編集委員　梅津　一晴 …… 76
引用文献資料　および参考資料 …… 77

文中記号と略語の説明

記号

＊１　①～は案内図中の①に対応します。

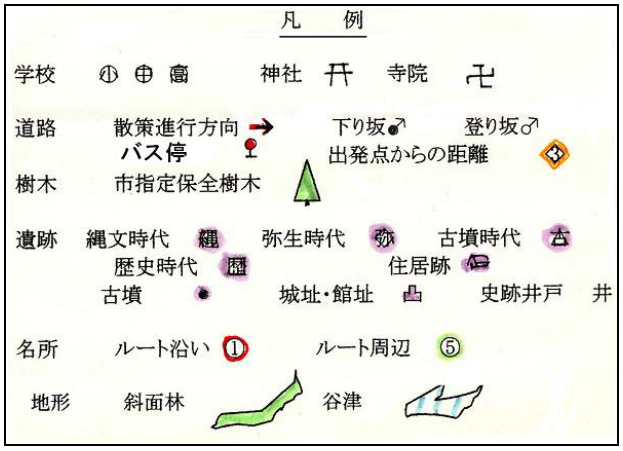
＊２　二桁ナンバーは○表示が出来ないので２１は２①と表示しました。

略　語

①　保全樹木；　我孫子市が指定の保全樹木。現在２０７本が指定されています。その内訳は、多い種類順に杉６４本、　椎・スタジイ　３７本、欅　３１本、イチョウ２７本、　赤松１７本、　樫１５本などです。

②　引用文献・資料作成者名称は、原則として敬称を省略しますが、市内在住者には敬称として…氏を使用しました。

案内図凡例



序

「我孫子半島」の生い立ちと手賀沼の歴史景観

序

「我孫子半島」の生い立ちと手賀沼の歴史景観

(1)「我孫子半島」の誕生

関東平野は、第四紀の地質時代に入った頃は深い海底の堆積盆地でありました。第四紀も後半に入った七十万年以降は火山活動が盛んになり、周辺の富士、浅間、那須などの火山から、度重なる火山噴出物が下流域に供給されました。下総台地は、浅間、那須火山帯の下流域に当ります。

図・1は5千年前の関東を示したものですが、千葉県は、黒地部分の浅瀬や湖沼のような内海に囲まれた島になっております。我孫子は北辺を香取海に面し、南に手賀沼を持つ細長い半島になっています。この「我孫子半島」の地形は、七万年前、多量の火山噴出物が鬼怒川上流から多量に供給されて香取海の入り江に沈積した砂州や自然堤防(竜ヶ崎層)と考えられています。六万年以降になると、相対的に急激な海面の降下が行われ関東平野が出現しました。

火山活動が沈静化し氷河期の後氷期に入った六千年前の縄文時代前期には、海面は海抜3メートルまで上昇しました。これは、「縄文海進」と呼ばれ、海は関東の奥深くまで侵入しました。その後は、多少の変動を繰り返しながら現在の海岸線近くまで退き、相対的に海面は安定しています。その過程で、鬼怒川と昔の利根川の水系は分かれました。鬼怒川は我孫子の北辺を流れて香取海に、利根川は古東京湾に流れました。そして鬼怒川下流の香取海の入り江に出来た氾濫原はラグーン(潟)化して多くの湖沼と湿原を形成し、中世以降は「藺沼(いぬま)」と呼ばれるようになりました。

図・2は明治初期の地図から作成した手賀沼と利根川の図ですが、現利根川沿いに「我孫子半島」の誕生当時の砂州と自然堤防の残骸が並んでいることが読み取れます。

我孫子は、古来水産物豊な香取海と手賀沼に面するという地理的環境もあって、後期旧石器時代、縄文時代から歴史ある土地柄でありました。その知りうる歴史は後期旧石器時代に始まります。その発掘された遺跡は、我孫子駅北口、柴崎妻子原、中峠鹿島前、湖北高校の日秀西、新木、西大作、北大作などに分布します。 縄文時代以降の遺跡は我孫子の台地に広く分布するようになります。香取海と手賀沼からの水産資源が豊な事もあって多くの人々が生活していたと考えられます。

外国の歴史に対比すると、縄文時代後期はBC3，000年のエジプト文明、BC2，700年のインダス文明、中国殷の時代に相当し、温暖時期に入って海面上昇のあった縄文末期～弥生時代はBC1，000年頃に相当します。

(2) 古墳時代

我孫子の古墳時代は四世紀代から幕開けします。図・3に示されるように当時の古墳は、手賀沼周辺から姉ヶ崎(市原市)、千葉の地から成田を通る国道51号線沿い(印旛沼沿い)に亘る地域(下海上国(しもうながみ)、印旛国、菊間国、上海上国)に分布していました。

沼南の北の作1号墳は、三世紀後半～四世紀前半、東葛最古の古墳とされています。我孫子では、高野山の水神山古墳が最も古いと推測されています。現在の手賀沼北岸に分布する我孫子古墳群の多くは、四世紀末以降に造られたもので大和朝廷の影響を受けているものもあります。謂わば大和政権東国支

配が及んだ時代と考えられ、「北の作」古墳に代わって手賀沼周辺を政治的に支配することになったものと考えられます。

我孫子古墳群から離れた位置に造られた五世紀後半の金塚古墳、六世紀前半の久寺家古墳は、それぞれの時期の水上、陸上交通の要衝の地に造られたものと考えられます。

七～九世紀になると岡発戸・都部の谷東側の湖北の地でも古墳が造られるようになります。これがいわば「湖北古墳群」ですが、規模の小さい円墳が多いのが特徴です。近年、湖北の野守遺跡・日秀西遺跡などの発掘で「相馬郡意布郷（おぶごう）」に繋がる古代集落の全容が徐々に判ってきました。

古墳時代末期の飛鳥時代、大化の改新(645)以降、我孫子は七道制のもと東海道に組入れられていました。当時の「東海道」は、東回りが下総国府(市川)・河曲駅(現千葉付近)から現国道51号線沿いに香取神宮参道分岐の駅を経て常陸国府に通じていました。

奈良時代、養老二年(718)には駅伝馬制度ができました。図・4は西暦 771～805 年頃の東海道を示したものです。鹿島道を通らないで我孫子を通る新しい道が、使われ始めた頃の東海道図です。近年湖北の地に「相馬郡衙」と「於賦駅」の存在が想定されるようになりましたが、湖北の地は、永い間重要な交通の要衝であったと考えられるようになりました。

奈良時代の「常陸風土記」(和銅六年　713)＊1　では「東は大海、南は下総と常陸との堺なる安是の瑚、西は流海・・・・」と当時の香取海を伝えています。

手賀沼は香取海から内陸に入る重要な水上ルートでありました。

（3）江戸時代

長い乱世の後、徳川家康が江戸に入って直ぐ文禄三年(1594)、利根川を銚子に流す利根川東遷工事が始まりました。六十年後にその東遷大事業は完成しました。しかし、もともと氾濫を繰り返してきた利根川の下流となった「藺沼」は、その影響で洪水が頻発しました。洪水は、利根川上流から多量の土砂をも運び川筋に自然堤防を造り、後背地には新しい低湿地を広げて多くの小沼をつくりました。図・2に示される現利根川沿いの後背地に造られた和田沼のほか北新田の本願寺、柴崎、柴崎下沼などはその一例です。

また、それまで手賀沼は、銚子から松戸に通じる水上ルートとなっていましたが、利根川の東遷後は布佐に堤防が出来たため、手賀沼に直通が出来なくなりました。

（4）現代の手賀沼

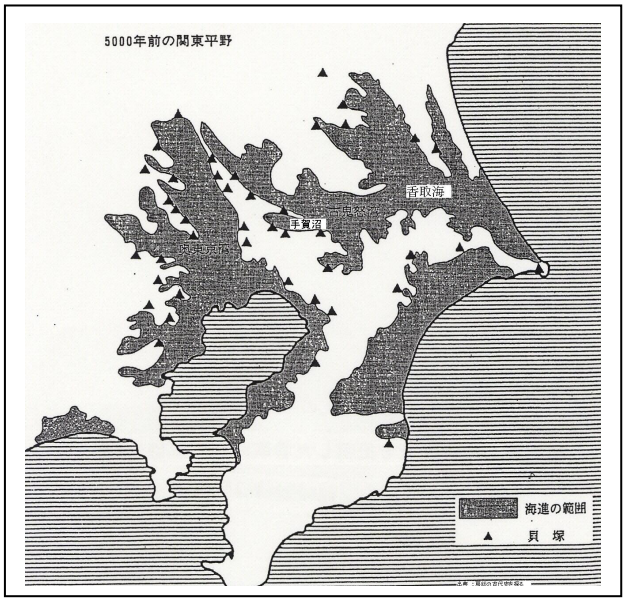
戦後の昭和二十一年から二十年かけて行われた印旛・手賀沼干拓事業は、手賀沼の形を大きく変えました。手賀沼はその面積の四割が水田となり、金山落の下手賀沼は分離し、手賀沼の東半分は手賀川となり利根川に流れました。

また昭和末期の高度経済成長で、周辺地域の都市化・宅地化が進んだため、湖水の水質汚染は一気に進みました。そして夏にはアオコが毎年異常発生し、悪臭が広がり、二十七年間連続水質ワースト1を平成十三年まで続けました。

そのため導水事業が検討され、平成十二年四月から北千葉導水事業による浄化用水の導入が開始しました。水質の改善は、北千葉導水事業による浄化用水の手賀沼導入で行われました。

（5）「美しい日本の歴史風土準100選」

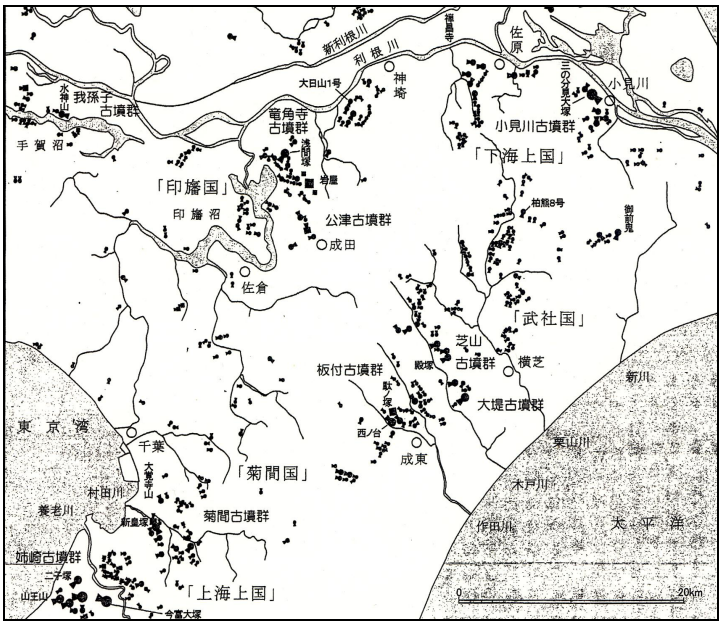
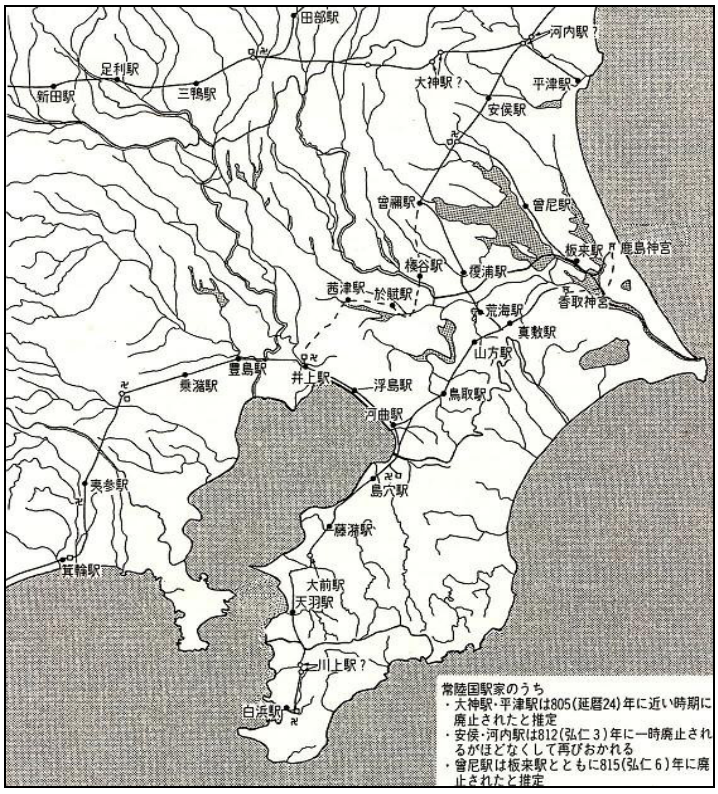
我孫子市は、(財)古都保存財団など主催の古都保存法四十周年記念事業の「美しい日本の風土100選」に応募し準100選に入りました。京都、奈良などの世界遺産級の地域が含まれる中、我孫子の景観資質の高さが証明されました。それは、古墳群、城址、社寺仏閣、文化人との深く係わった手賀沼・利根川の自然景観・歴史景観の存在が大きいと想われます。



図・1　5千年前の関東　　鈴木公雄　＊2

図・2　明治初期の手賀沼と利根川　―　現在に残る我孫子半島地形

図・3　千葉県北部の前方後円墳と国造（くにのみやつこ）国　（甘粕　健　図　＊3）



図・4　771～805年頃の東海道駅路　＊4